



青柳園だより

2025年
11月号
文京区立青柳幼稚園

身近な自然に触れて 気づきから学びへ

園長 米澤 千秋

園庭のミカンが日に日に色付き、秋の深まりが感じられるようになりました。

先日は、近隣の目白台運動公園に遠足に行きました。5歳児ゆり組と4歳児もも組が手をつなぎ、楽しく話したり、少しゆっくりペースのもも組の手をゆり組が優しく引いてリードしてくれたりする姿がありました。4月から日常的に様々な場面で4・5歳児が心地よい関わりを重ねてきたことが、互いに親しみを感じ、安心して頼ったり、相手に応じて優しく関わったりする姿につながっています。

公園でのドングリ拾いでは、「見て！いっぱい集めたよ」「これは帽子をかぶってるんだよ」など嬉しそうに見せてくれました。「このドングリさんはまあいいね」と声を掛けると、「こっちは細長い」「青いのもある」「これはすごくツルツルしてる」など、色や形、感触など自分で気付いたことを言葉で表現し、夢中になってドングリ拾いを楽しみました。

芝滑りでは、ゆり組は去年の経験からダイナミックにスピードに乗って滑ったり、スノーボードのように段ボールの上に立って滑ることに挑戦したりしていました。もも組は、最初はドキドキしながらもすぐに楽しさを感じ、体重を後ろにかけたり、脚が芝につかないようにしっかり宙にあげたりするなど、繰り返し遊ぶ中で、よく滑るためのコツを習得していました。また、鬼ごっこで大きな木に隠れたり、芝生を友達と一緒にゴロゴロ転がったりと、全身で自然を感じ、楽しむ経験となりました。

園内でも、自然に触れる体験を重ねています。

ゆり組は大切に育ててきたサツマイモを収穫しました。ツルを頼りに掘り進め、サツマイモが顔を出すと「わぁ大きい！」「長細い！」「これは小さいから“こいも”だね」など大盛り上がり。みんなで並べて数を数えました。「干し芋食べたいな」「大学芋もいいな」など、味わうことを楽しみにする気持ちが膨らんでいます。その後、ツルを使って縄跳びや綱引き、リースの土台作り、よく観察しながら割箸と墨汁を使ってサツマイモの形を描くなど、様々な活動をしました。



もも組はオシロイバナの花の下に落ちている種を見付け、また花が咲くことを楽しみに友達や先生と一緒に種を蒔いたり、手で割って「黒い種なのに、中は白いよ！」「白い汁が出てきた」と興味をもって触れ、自分なりに試したりしていました。

このように子どもたちは日々身近な自然に関わり、試したり、工夫したりする中で心が揺さぶられ、自分なりの気づきを得ていくことで“科学的な思考の芽生え”が培われていきます。ただ知識を与えるのではなく、幼児が身近な自然や事象とじっくり関わることでできる時間や場を十分確保し、「面白い」「不思議！」「やってみよう」と思えるようにすることが大切です。

周りの大人は子どもの気づきを受け止めたり、考えを引き出したりするために、豊かな言葉での会話を心掛け、子どもたちの探求心を育てていきたいですね。

後日、親子で園庭のミカンを収穫する予定です。お楽しみに！



わぁ！お米ちっちゃい！
農家さんは大変だねえ

修了生の保護者の方からいただいた苗を育て、稲刈りをしました



籾殻を剥いてみると...その大変さを実感